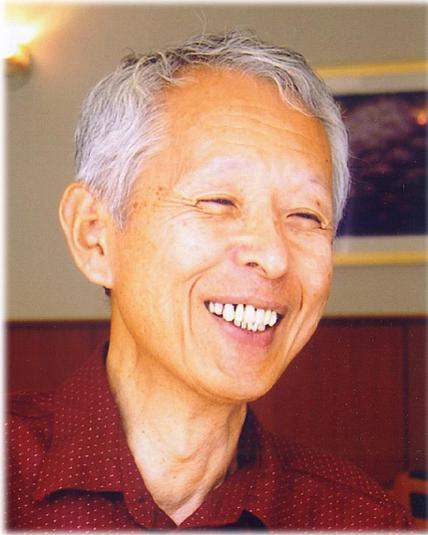


伊藤明彦さん講演

被爆者とはたれか

東京・調布市公民館にて 2006年10月25日講演



- | | |
|-------------------------|-------|
| 1: 「被爆体験」と「被爆者体験」 | 21:36 |
| 2: 「原子爆弾被害者」と「原子爆弾否定者」 | 18:47 |
| 3: 被爆者の「被害者性」と「加害者性」 | 11:48 |
| 4: 体験の「異常性」と人間としての「普通性」 | 6:48 |
| 5: 「典型的被爆者」はどこにもいない | 7:35 |
| 6: 質疑 | 2:14 |

合計 約69分

※1と3の冒頭、録音開始が間に合わず、少し欠けています。

お話の中に出てくる被爆者の体験談は、ホームページのカセット版「被爆を語る」でお聞き頂けます。

伊藤さん略歴

1936年(昭和11年)11月 東京都生まれ。父の転勤により長崎で育つ。原爆投下時は山口県(父親の出生地)に疎開。原爆投下10日後長崎の自宅に戻り入市被爆。

1960年 NBC長崎放送に記者として入社。ラジオ番組「被爆を語る」を企画し、初代担当となったものの、半年後支局への転勤を命じられ、担当を外される。ならばと同局を退社し、自身のライフワークとして被爆証言収録を続ける。

1971年から79年までアルバイトで食べつなぎつつ長崎・広島はもとより、拠点(住まい)を移しながら、青森から沖縄まで被爆者を訪ね歩き、収録。収録者数は1,003名。記者という肩書きのない中、同じくらいの人々に収録を拒否される。

収録した証言をもとに、1989年にはカセット版「被爆を語る」、2006年にはCD版「ヒロシマ ナガサキ 私たちは忘れない」を自費制作し、全国の図書館などへ無償寄贈。

インターネットの発達は、被爆者の声を世界へ届ける好機と



捉え、2006年11月から3年計画で広島、東京、長崎と拠点を变えてビデオによる取材を行うも、2009年春(長崎取材の半ば)、疲労が蓄積していたところに風邪をこじらせ肺炎で死去。享年72。

その間のビデオ取材者数は349名に登ります。

Webサイト「被爆者の声」は[検索]で。